2024 年度 医学部　IR 報告書

― 2023 年度卒業生を対象とした卒業コンピテンス・コンピテンシー到達度調査（学生自己評価）―

藤田医科大学ＩＲ推進センター

医学部ＩＲ分室

2024 年 4 月 1 日

藤田医科大学ＩＲ推進センター
医学部ＩＲ分室

2024 年度 医学部　IR 報告書

― 2023 年度卒業生を対象とした卒業コンピテンス・コンピテンシー到達度調査（学生自己評価）―

１．2023 年度卒業生を対象とした卒業コンピテンス・コンピテンシー到達度調査（学生自己評価）の概要

２．卒業コンピテンス・コンピテンシー到達度調査（学生自己評価）の集計・分析結果

2024 年度 医学部　IR 報告書

― 2023 年度卒業生を対象とした卒業コンピテンス・コンピテンシー到達度調査（学生自己評価）― について

本学の教育目標を達成するため、教育及び学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的とし、藤田医科大学ＩＲ（Institutional Research）推進センターが設置されています。今回、下部組織の医学部 IR 分室では、2023 年度医学部卒業生を対象として卒業時卒業コンピテンス・コンピテンシーの到達度調査（学生自己評価）を実施・分析しましたので、結果についてご報告いたします。

2024 年 4 月 1 日

2023 年度 藤田医科大学ＩＲ推進センター 医学部ＩＲ分室

古澤彰浩、浦久保秀俊、飯塚成志、若月徹、一瀬千穂、島向健太、
松原敬太、白井美沙子、横田正明、藤江里衣子、吉本潤一郎

謝辞
本調査のデータ収集・分析にあたっては、医学部学務課・櫻井麗子氏に多大なご協力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

１．背景と目的

本学医学部は従来プロセス基盤型教育を行ってきたが、2015 年度第 1～3 学年よりアウトカム（学習成果）基盤型教育を採り入れた新カリキュラムに移行している。これに伴い、医学部では卒業時にすべての卒業生が身につける能力として「卒業コンピテンス（I～VII の 7 領域）」「卒業コンピテンシー（計 37 項目、現在 35 項目）」を定めた。低学年から各科目で段階的に実践力（応用力）を積み上げていき、卒業時に身につける能力をパフォーマンス・レベルとして評価するものである。

このような手法は全国の多くの医学部・医科大学で採用されているが、現時点では卒業コンピテンス・コンピテンシーに対する有効な評価方法は確立していない。知識や診察・診療技術は従来型の様々な試験で評価可能としても、プロフェッショナリズム・コミュニケーション能力・専門職連携の実践・独創的探究心等が卒業時に実践できることをどのような手法で評価するのかは難しい問題である。そもそもどの程度、どう実践できればよいかの基準が明確となっていない。従来こうした項目は信頼性・妥当性を有する方法では評価されずに、あるいは評価のないままに卒業させていたということもできる。

しかしながらこうした項目について、各学年においてどの程度修得しているかを調査し、カリキュラムに反映させていくことの重要性は論を待たない。そこで 2017 年度以降、本学では卒業時において卒業コンピテンス・コンピテンシー到達度の自己評価アンケートを実施している。結果は医学部のカリキュラム全体を俯瞰した改善に資するために利用するものとする。

２．方法

１）調査実施日・会場

2023 年 2 月 5 日(月)（医師国家試験実施翌日)、本学内で開催された医学部 6 年生学生集会において実施した。一部の学生は同集会に Teams を通じて参加した。

２）対象者・回答者、回答方法

対象者は 2023 年度医学部卒業生 120 名で、全員が回答した（回答率：100%)。医学部 IR 分室長が本調査の目的・方法を口頭で説明して調査参加を依頼した。調査フォーム（巻末に掲載）を Moodle で作成し、対象者がこれにアクセスして回答した。対象者全員に回答してもらうため、医学部 IR 分室長が回答者を Moodle で把握し、未回答者には回答を促した。

３）調査項目

卒業コンピテンシー35 項目のそれぞれに対し、調査時点（卒業時）においてどの程度到達しているかについて、6 段階リッカート尺度により自己評価した。回答選択肢（得点）は以下の通りであった：「完全に修得できた（6 点)」「概ね修得できた（5 点)」「最低水準は修得できた（4 点)」「ある程度修得したが、最低水準には届かない（3 点)」「十分に修得できていない（2 点)」「全く修得できていない（1 点)」

今回使用したコンピテンシー項目は 2020 年度入学生から改訂されたもので、今回の対象者の入学時には導入されていない項目を含む。しかしながら新項目は旧項目の文言や内容を明確にしたり、時代に合わせたりするために修正・導入されたものである。2019 年度以降は修正前の内容と整合性を取りつつ、新規コンピテンシーが全学年カリキュラムに導入されている。今後同様の調査を経年的に行って学修成果の比較を可能にするため、本調査では新コンピテンシー項目を使用した。

３）分析方法

卒業コンピテンシー35 項目の回答結果を基に、各項目、全項目、および卒業コンピテンス（I～VII の各領域）の平均点と標準偏差を算出した。

また、2021・2022 年度卒業生と卒業コンピテンス（I～VII の各領域）の平均値を比較し、各領域のトレンドについても検討した。

分析においては、氏名・学籍番号などの個人を特定できる情報を除いた連結不可能匿名化データを作成し使用した。分析にはマイクロソフト社製 Excel を使用した。

３．結果・考察

１）2023 年度卒業生の自己評価（図 1）

コンピテンス 7 領域の 6 段階評価の平均はそれぞれ 4.69 ～ 5.10、コンピテンシー35 項目の全平均は 4.94、それぞれの平均値は 4.30～5.21、標準偏差は一部を除いて 0.7～0.9 の範囲であった。回答のほとんどは「最低水準は修得できた（4 点）」、「概ね修得できた（5 点）」、「完全に習得できた（6 点）」の肯定的回答に集中しており、学生はほぼ全ての項目について達成できたと自己評価している。

平均が 5 点を超えたコンピテンスは「I　医師としてのプロフェッショナリズム」(5.04)、「II　コミュニケーション能力」(5.05)、「III　専門職連携」(5.10)、「VII　社会と医療」(5.01）の 4 領域であり、その中で「I-4 個人の尊厳を尊重し、利他的、共感的に対応できる。」(5.21)、「III-1　他職種の役割を理解し、尊重することができる。」(5.11)、「III-2　医師の役割を理解し、これに基づいて行動することができる。」(5.13)の各コンピテンシーの平均点が特に高い。これらは本学の理念「我ら、弱き人々への無限の同情心もて、片時も自己に驕ることなく医を行わん」に基づいて行われるプロフェッショナリズム教育や本学の特色であるアセンブリ教育（学部・学科の垣根を超えて全学で行う、他者を尊重する姿勢に基づくコミュニケーションと専門職連携教育）を強く反映しており、本学教育の効果と考えることができる。

また、「IV　医学および関連領域の知識」、「VI　診療の実技」の 2 つの領域も肯定的回答に集中して平均点が 4.9 点前後と高く、医学・医療の知識・技術の修得が概ねできていると自己評価している。

一方で、コンピテンス「V　独創的探究心」は平均 4.69 と他の領域に比べると若干の低評価となっている。コンピテンシー項目「V-4.　海外での研究に従事することができる基礎的な語学力を有する」(4.30) が特に低く、語学に関連した項目「IV-3　診療に必要な基礎的な医学英語力を有する」も同様に低評価（平均：4.63）となっている。この 2 項目については「ある程度習得したが、最低水準には届かない（3 点）」、「十分に習得できていない（2 点）」、「全く習得できていない（1 点）」の否定的回答を選んだ学生が他のコンピテンシー項目に比べてかなり多く、英語を使うことに強い不安を持つ学生の存在を示唆している。また、「V　独創的探究心」は語学に関する項目以外でも「V-2　論文等の情報を適切に収集することができる」(4.73)、「V-3　収集した情報を論理的、批判的に吟味し、自分の意見を加えて発表できる。」(4.75) が低くく、単なる検索のスキルや語学力の不足だけでなく、自発的に問題の本質を考察し、それに対して的確な情報を収集する能力の不足が示唆される。

以上の結果から、「英語を使う」能力と「課題を設定し解決できる」能力の涵養が依然として重要な教育上の課題であると考えられる。1～3 年生に対しては TOEFL-ITP テストの導入や理系教養・基礎科目の中での英語教育など基礎的な語学力の向上が図られているが、さらに臨床の場を含めた専門教育における実践的な英語教育も検討されるべきであろう。また、研究マインドの涵養については 3 年生から医学研究演習が導入されているが、さらに 1 ～ 2 年生の理系教養・基礎科目の中で「大学受験に特化した学習」から「論理的思考・批判的思考を伴う考える学習」への転換を図る「研究マインドの下地づくり」が検討されるべきであろう。この転換は研究マインドのみならず、臨床医学の学習においても自発的な学習を促すことにつながる。このような教育を経て、全ての卒業生が本学の建学理念「独創一理」を実現することを期待したい。そして卒業生がそれぞれの場においてそれを発揮することが藤田医科大学のプレゼンスを高めることにつながるであろう。

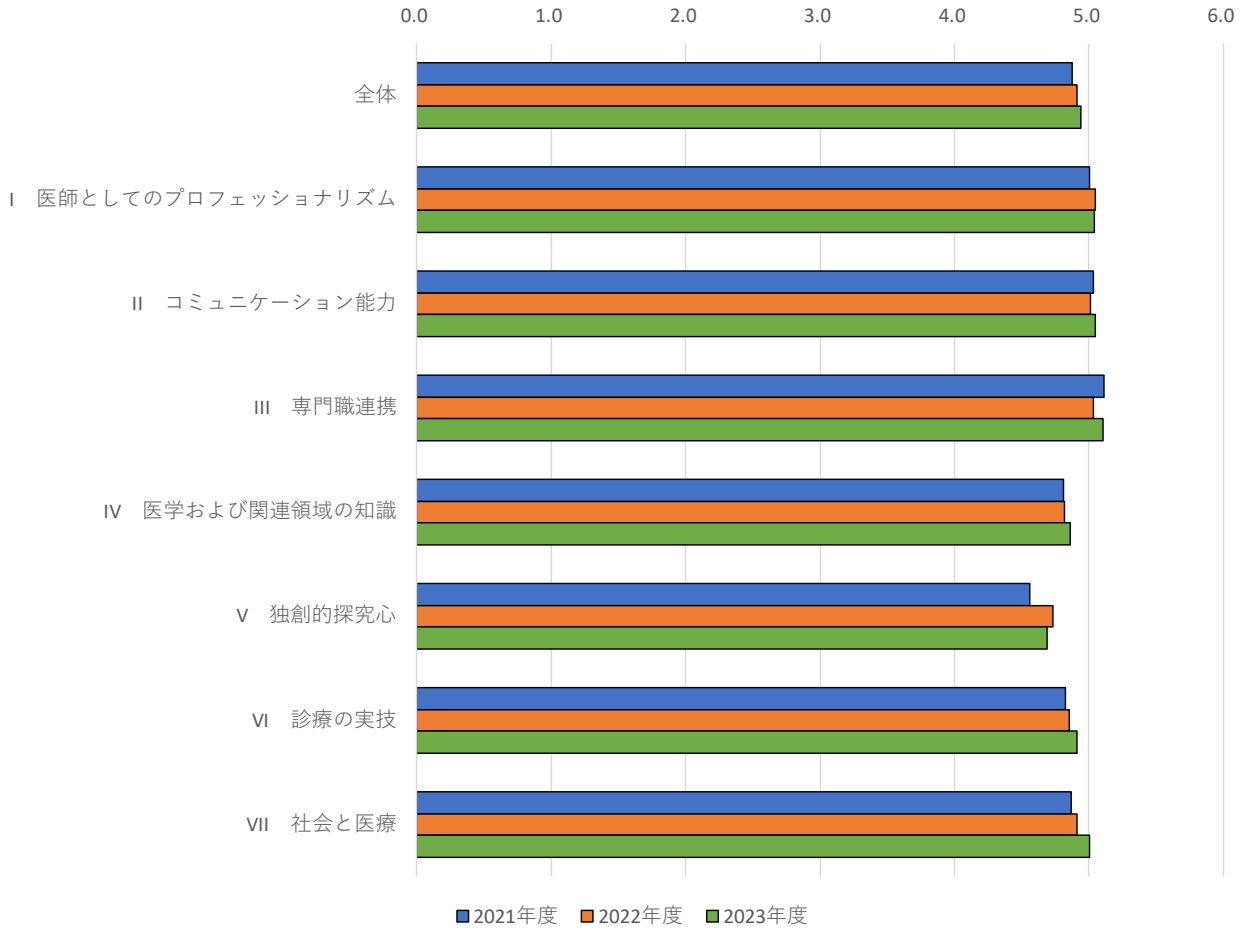
図1．2023年度医学部卒業生の卒業コンピテンス・コンピテンシー自己評価

		平均値
全体（コンピテンシー35項目）		4.94
I	医師としてのプロフェッショナリズム	5.04
I-1	医師として常識ある行動がとれる。	5.03
I-2	医療にかかわる法令を理解し遵守できる。	5.03
I-3	医療倫理について理解し、それに基づいて行動ができる。	5.09
I-4	個人の尊厳を尊重し、利他的、共感的に対応できる。	5.21
I-5	自己評価を怠らず、自己研鑽できる。	4.98
I-6	適切な助言、指導ができ、助言、指導を受け入れることができる。	5.04
I-7	社会から期待される医師の役割を説明できる。	4.97
I-8	生涯にわたって自律的に学び続けることができる。	4.98
II	コミュニケーション能力	5.05
II-1	患者ならびに家族との良好な人間関係が構築できる。	5.06
II-2	患者の心理・社会的背景を踏まえながら、患者ならびに家族の意思決定を支援できる。	5.03
II-3	医療スタッフとの円滑な意思疎通ができる。	5.05
III	専門職連携	5.10
III-1	他職種の役割を理解し、尊重することができる。	5.11
III-2	医師の役割を理解し、これに基づいて行動することができる。	5.13
III-3	患者の健康問題を解決するために、多職種で協力することができる。	5.07
IV	医学および関連領域の知識	4.86
IV-1	人体の正常な構造と機能発達・成長・加齢・死などの生命現象および心理・行動について説明できる。	5.01
IV-2	患者の病態・診断・治療を医科学やEBMなどの根拠に基づいて説明できる。	4.95
IV-3	診療に必要な基礎的な医学英語力を有する。	4.63
V	独創的探究心	4.69
V-1	自らの考えや疑問点を検証するための科学的方法論を学び、学術・研究活動に関与することができる。	4.85
V-2	論文等の情報を適切に収集することができる。	4.73
V-3	収集した情報を論理的、批判的に吟味し、自分の意見を加えて発表できる。	4.75
V-4	海外での研究に従事することができる基礎的な語学力を有する。	4.30
V-5	研究倫理・コンプライアンス・利益相反（COI）について理解する。	4.83
VI	診療の実技	4.91
VI-1	病歴を正確に聴取し、必要な身体診察ができる。	4.78
VI-2	基本的臨床手技を安全に実施できる。	4.83
VI-3	病歴・身体所見より鑑別診断を挙げ、必要な検査を選択し、その結果を評価できる。	4.89
VI-4	頻度、又は、緊急性や重症度の高い疾患・病態の診断・治療の計画を立てることができる。	4.83
VI-5	診療計画を立てる際、患者や家族の価値観を考慮できる。	4.99
VI-6	診療録を正確に記載し、診療情報をプレゼンテーションすることができる。	4.92
VI-7	症例についての要約（サマリー）を作成し、情報共有することができる。	4.94
VI-8	病状説明や患者教育に参加することができる。	4.88
VI-9	安全な医療を提供できる。	4.94
VI-10	個人情報保護を理解し、厳守できる。	5.13
VII	社会と医療	5.01
VII-1	社会と健康の係わりを理解し、疾病予防と健康増進に取り組むことができる。	5.05
VII-2	保健・医療・福祉の現状を把握し、社会資源を活用してその改善を図ることができる。	4.98
VII-3	地域医療・介護に貢献することができる。	4.99

２）2021～2023 年度卒業生の比較（図 2）

2020 年以降の新型コロナ感染症による病院実習を含む教育体制の変化を経験しているにもかかわらず、近年の卒業生の自己評価は高いレベルを維持している。今年度はコンピテンス 7 領域のうち平均が 5.0 以上を超えたものが 4 領域と増え、領域間の系統的な差が縮まる傾向は継続している。

ただし、コンピテンス「V 独創的探究心」については他の領域に比べてに低い傾向は変わっておらず、先述した通り「英語を使う」能力と「課題を設定し解決できる」能力の涵養が依然として重要な教育上の課題であることを示している。これまでに行ってきた教育改善の効果を注視しつつ、より実践的な英語教育や主体的な学修姿勢の育成などのさらなる改善策も検討すべきであろう。

図2．2021～2023年度医学部卒業生の卒業コンピテンス自己評価平均値の比較

	2021年度	2022年度	2023年度
全体	4.87	4.91	4.94
I　医師としてのプロフェッショナリズム	5.00	5.05	5.04
II　コミュニケーション能力	5.03	5.01	5.05
III　専門職連携	5.11	5.04	5.10
IV　医学および関連領域の知識	4.81	4.82	4.86
V　独創的探究心	4.56	4.73	4.69
VI　診療の実技	4.82	4.85	4.91
VII　社会と医療	4.87	4.91	5.01